



公益社団法人薬剤師認定制度認証機構代表理事

# 吉田 武美

小誌第5号(2012年7月)に代表理事(当時)の内山充氏にご登場いただいた  
公益社団法人薬剤師認定制度認証機構(以下、CPC)は、  
2012年6月の理事会において吉田武美氏を2代目代表理事に選任した。  
CPCの社会的使命そのものをさらに大きく前進させようと奮闘する、  
2代目代表理事の忌憚のない本音を聞こうと、勇躍、対談を試みた。

ヴォイス

oice

編集長対談

聞き手／『ターンアップ』編集長：武田 宏

## 恩師の導きを得て 退職後のライフワークに出会う

——CPCの2代目代表理事を引き受けた経緯をお教えください。

**吉田** 初代代表理事の内山先生は、私が東北大学大学院で学んでいたときの尊敬すべき教授です。

そのような縁で、2011年に昭和大学薬学部教授を定年退職するにあたり、恩師の内山先生から「定年を契機に、薬剤師の生涯学習に取り組んでみないか」と声をかけていただき、CPC2代目の代表理事に就任することになりました。

内山先生がCPC代表理事を退任することを決めたことを受けて開催された理事会で、協議の結果、私が選出され、内山先生は顧問になりました。

——薬剤師の生涯学習には、以前から興味をお持ちだったのですか？

**吉田** もちろんです。昭和大学は薬学教育4年制の時代にすでに、将来の薬学教育6年制を視野に入れ臨床能力のある薬剤師を輩出する目的で医療薬学専攻大学院を設立した実績を持つ大学です。

後に実施された薬学教育6年制は、昭和大学の取り組みをかたちにしたものとさえ感じています。

卒業生とも頻りに交流し、教える側も教わる側も、ともに生涯にわたる学習の大切さを認識していたことを誇りに思っています。

## 専門薬剤師資格の乱立が 社会の認知を曇らせる

——2013年5月のCPC理事会では、急増している専門薬剤師の質をどう保つかが活発に議論されたと聞きました。

**吉田** CPCが、プロバイダー（研修・資格実施機関）から申請のあった研修・認定制度について第三者評価機関として客観的評価を行い、基準に適合する制度を認証し、それを情報として広く薬剤師にお知らせしていることを考えれば、専門薬剤師の質についての議論に違和感を持つ方もおられるでしょう。

しかし、CPC設立の根源にある「薬剤師が時代に即した職責を果たすには」という大命題に照らせば、決定的外れな議論ではないのです。

たとえば、研修認定薬剤師、領域認定薬剤師については、制度認証を通して明確な関与を行います。

将来的に、関係するであろう学会などと綿密に協議しながら、プロバイダーを評価するかたちで、専門薬剤師制度などにも、CPCが関与していくことも必要と考え、ガイドラインの策定作業を進めていければと思っています。

——日本病院薬剤師会が薬剤師に専門性が必要とされる領域と定めるのは、がん、感染症制御、精神科、妊婦・授乳婦、HIV感染症の5領域です。確かに昨今、それらの領域だけを見ても薬剤師団体や学会がいくつもの認定資格をつくっており、乱立の気配が見て取れ

ます。薬剤師界全体の問題として、早期に対処を考えるべきとの思いは、多くの関係者が共有しているでしょう。

**吉田** 基本的に専門薬剤師の資格や制度が増えるのは、歓迎すべきです。ただ、乱立の体となれば混乱が生まれますし、薬剤師の能力が患者さんから見えづらく、理解しづらくなりかねません。

資格制度は、社会に薬剤師の質を示す効果を期待してのものでもあるとの本分を忘れてはなりません。

——医師の世界で専門医制度が乱立し、最終的に厚労省が整理に乗り出したいきさつには薬剤師界が学ぶべき点が多いですね。

**吉田** CPCでも、それを念頭に議論しました。患者や国民から正しく認知されない専門資格は、医療界全体にとってむしろマイナスになりかねません。ただ、CPC認証のプロバイダーが認定している研修認定薬剤師、領域認定薬剤師の数は2013年現在約4万人で、全薬剤師の6分の1にしすぎず、国民の認知度も低い。私はもっと増えるべきだと考えます。乱立とならないバランスを保ちながら、増やしていく必要があります。

その意味で2013年9月に正式に発足した社団法人日本専門医制評価・認定機構（以下、専門医制評価・認定機構）が第三者評価機関となり、専門医資格に統一基準を導入する整備方針は大いに歓迎できます。

——よく考えると、専門医制評価・認定機構はCPCの医師版であり、専門医資格版であ

【資料】CPCにより認証された認定制度リスト（2014年1月現在）

認証申請者	申請認定制度名	認証番号	認証期日	種別	URL
公益財団法人 日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師制度	G01	2005年6月20日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.jpec.or.jp/nintei/kenshunintei/index.html">http://www.jpec.or.jp/nintei/kenshunintei/index.html</a>
東北大学大学院薬学研究科	MCS認定制度	E01	2005年12月12日	その他の薬剤師 認定制度	<a href="http://www.pharm.tohoku.ac.jp/education/mcs.shtml">http://www.pharm.tohoku.ac.jp/education/mcs.shtml</a>
東邦大学薬学部	生涯学習認定制度	G02	2006年3月13日	生涯研修認定制度	<a href="http://cptc.phar.toho-u.ac.jp/">http://cptc.phar.toho-u.ac.jp/</a>
一般社団法人薬剤師あゆみの会	生涯研修認定制度	G03	2006年6月19日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.ph-ayumi.org">http://www.ph-ayumi.org</a>
慶應義塾大学薬学部	認定薬剤師研修制度	G04	2006年8月25日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.pha.keio.ac.jp/pharmacy/index.html">http://www.pha.keio.ac.jp/pharmacy/index.html</a>
一般社団法人イオン・ハピコム 人材総合研修機構	認定薬剤師研修制度	G05	2007年2月15日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.hapycom.or.jp/">http://www.hapycom.or.jp/</a>
明治薬科大学	認定薬剤師研修制度	G06	2007年3月14日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.my-pharm.ac.jp/nintei/index.html">http://www.my-pharm.ac.jp/nintei/index.html</a>
NPO法人医薬品ライフタイム マネジメントセンター	医薬品ライフタイム マネジメント(DLM) 認定薬剤師研修制度	P01	2007年3月14日	特定領域認定制度	<a href="http://www.dlmc.jp/">http://www.dlmc.jp/</a>
神戸薬科大学	生涯研修認定制度	G07	2007年6月20日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.kobepharm-u.ac.jp/extension">http://www.kobepharm-u.ac.jp/extension</a>
公益社団法人石川県薬剤師会	認定薬剤師研修制度	G08	2008年6月18日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.center-kenyaku.jp/">http://www.center-kenyaku.jp/</a>
新潟薬科大学	生涯研修認定制度	G09	2008年9月1日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.nupals.ac.jp/koudo/">http://www.nupals.ac.jp/koudo/</a>
北海道薬科大学	生涯研修認定制度	G10	2008年10月20日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.hokuyakudai.ac.jp/shogaikenshu/">http://www.hokuyakudai.ac.jp/shogaikenshu/</a>
星薬科大学	生涯研修認定制度	G11	2009年6月29日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.hoshi.ac.jp/home/nintei/index.html">http://www.hoshi.ac.jp/home/nintei/index.html</a>
一般社団法人 昭薬同窓会・平成塾	生涯学習認定制度	G12	2010年5月26日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.shoyaku.net/">http://www.shoyaku.net/</a>
学校法人医学アカデミー 薬学ゼミナール生涯学習センター	生涯学習認定制度	G13	2010年12月17日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.yakuzemi-shougai.jp/">http://www.yakuzemi-shougai.jp/</a>
一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会	プライマリ・ケア 認定薬剤師制度	P02	2011年2月21日	特定領域認定制度	<a href="http://www.primary-care.or.jp/">http://www.primary-care.or.jp/</a>
北海道医療大学	北海道医療大学認定 薬剤師研修制度	G14	2011年3月25日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~p-support/index.html">http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~p-support/index.html</a>
埼玉県病院薬剤師会 生涯研修センター	生涯研修認定制度	G15	2011年6月3日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.saibyoyaku.or.jp/kensyu">http://www.saibyoyaku.or.jp/kensyu</a>
一般社団法人日本女性薬剤師会	生涯研修認定制度	G16	2012年12月14日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.jyoyaku.org/index.html">http://www.jyoyaku.org/index.html</a>
日本大学薬学部	生涯研修認定制度	G17	2013年3月15日	生涯研修認定制度	<a href="http://www.pha.nihon-u.ac.jp/">http://www.pha.nihon-u.ac.jp/</a>

るとも言えます。

生涯学習に絞り込んだ目的ながら、研修のプロバイダーという概念を設け、その中味を評価する仕組みづくりは、薬剤師界が先んじていたのです。

**吉田** 内山先生をはじめとした、先達の慧眼のためものです。

——薬学教育6年制の時代となり、薬剤師にはより厳しい要求が示されています。

**吉田** 社会からの要求に応じてこそその国家資格です。生涯をかけて学習をつづけ、日々自分を高めて社会の役に立つ意識がなくてはなりません。

——そういった義務感を帯びた精神性が、新しい薬学教育のもとで大きく膨らむと期待したいのですが。私の見る限り、薬学部のカリキュラムに薬剤師の社会的使命や義務を徹底して叩き込むような方向性が見えませんが。

**吉田** おっしゃるとおりかもしれませんが。ただ、大学だけに求めるのは無理があるかもしれません。卒業教育や生涯学習が担うべき部分も大きいはずですよ。

### 医薬分業が社会的評価を得るために 薬剤師自身がすべきこと

——2013年を振り返ると、「医薬分業は失敗だった」と糾弾する発言者が現れ始め、薬剤師に向けられる視線が厳しさを増した年でした。

**吉田** 1992年の医療法改正で医薬分業が加速したわけですが、処方せん報酬などの条件が有利すぎて、保険薬局等が収益団体の性格を強めてしまったと思われているのかもしれない。本来は、患者さんが薬剤師に気軽に健康相談でき、薬の安全性を担保するようになるなどのための医薬分業で、薬剤師の社会貢献をあと押しするはずだったのですが、少々目標がぼやけてしまったようですね。

——保険薬局を運営する立場にある者として返す言葉が見つかりません。

**吉田** 長く教育機関に身を置き、現在はCPDで活動する者としては特に、医薬分業で忙しさが増し、生涯学習に割く時間を持ってない薬剤師が増えてしまった現象には残念な思いを持ちます。

——今の保険薬局の現場は、仕事の内容がきわめて貧弱です。処方せんを受け取った瞬間に「早く調剤しなければならぬ」、「加算要件を満たすために薬歴を記さなければならぬ」に追い立てられるばかりで、患者さん視点など持つ間もないのです。

**吉田** なるほど。

### 町の科学者として もっと幅広く貢献できる薬剤師

——処方せんの処理に追い立てられた薬剤師に質問ばかり受けて、質問を発する余裕も与えてもらえない。ならば、患者さんが男性ならば、かわいい女性が「お大事に」と声をか



#### PROFILE

(よしだ・たけみ)

沖縄県出身。薬学博士。徳島大学薬学部卒業。東北大学大学院薬学研究所博士課程修了後、同薬学部助手。米国バンダービルト大学医学部研究員を経て昭和大学薬学部毒物学教室（現生体制御機能薬学講座毒物学部門）助教授、教授を務め2011年定年退職、昭和大学名誉教授を授与。2012年より公益社団法人薬剤師認定制度認証機構代表理事を務める

けてくれるドラッグストアでOTCでも求められるかとも仕方ありません(笑)。

また、処方せん薬からOTCまでの一元管理さえできていない現状なので、薬剤師に批判的な意見が出てもいたしかたないでしょう。

**吉田** 医薬分業には、薬剤師が患者さんの健康管理に大きな役割を果たす期待が込められていたわけですから、期待を裏切ったとしたら批判もあるでしょう。

振り返れば、1940年代に生まれた私たちの世代は、薬局が地域から健康相談を寄せられる場所であった風景を知っています。薬剤師が町の科学者として、尊敬を集めていました。当時のように、地域からの信頼を獲得できる存在になるべきだと思います。

——町の科学者ですか——。とても良い響きですね。

**吉田** 私は大学で毒物学を教えていた時期もあり、学生には、薬剤師の守備範囲の広さを念頭に置いた話をよくしたものです。

医薬品の専門家の側面のみならず、毒物を含めた化学物質の管理を通して社会に貢献できる資格を持ち、仕事ができるのが薬剤師なのです。

——持っている可能性を生かせば町の科学者として評価される。

**吉田** 学校保健安全法にもとづいた学校薬剤師や、アンチドーピングに取り組むスポーツファーマシストとしての薬剤師などは、あま

り目立ちませんが、しっかりと使命を果たしふさわしい評価を得ています。社会に対して「顔の見える」貢献ができています。

——町の科学者として目の前に幅広い領域があるのももちろん、医療に限って見ても、薬剤師が学ぶべき領域はとても幅広い。

**吉田** そうですね。最先端の薬物療法を的確に操る点だけを考えても、薬剤師が勉強不足を露呈すれば、患者さんのQOLは確実に落ちます。

専門薬剤師に代表される先鋭化された専門性が、基礎知識を完全にマスターしたジェネラリストとしての能力基盤の上にか成り立っていない意味でも、薬剤師は、幅広く、かつ常に勉強しつづけることを求められる厳しい仕事です。

——薬剤師に接した際、継続的な勉強が徹底されていないように感じる場面がかなりあります。

**吉田** 目を向ける必要があるのは、薬剤師個々の努力が十分に報われる環境の創出と維持です。医療行政の関係者や保険薬局の経営者が果たすべき責任が多くあると思います。

——病院薬剤師が病棟業務を担うようになって以降、チーム医療の中での評価を着実に向上させています。一方、保険薬局の薬剤師が、いまだに「調剤係」のような業務を主体とし、地域からの評価を変えられていない点を、保険薬局運営者のひとりとして少々恥ずかしく感じます。

**吉田** いつの時代も、薬剤師は真面目で一生懸命です。ただ、時代ごとに変化する社会の要求について、もっと敏感でなくてはなりません。

忙しいとは思いますが、薬剤師一人ひとりが日常業務に没せず、社会の動きを察知し、自分で考え切り拓く努力をしてほしいです。

——生涯学びつづける、つまり、生涯学習ですね。

**吉田** 中長期的に見れば、日本にはまだない医療関係の資格の免許更新がいつか課題として浮上するはずですよ。そんなとき、薬剤師の世界では、研修参加などの実績が生涯学習の証と認められ、免許更新に変わる仕組みとなる。あくまで個人的な夢ですが、そのような時代の到来をイメージしています。

——生涯学習の制度認証で薬剤師界や医療界に貢献しようと心に決めた方の、心象風景が次第に理解できてきました。

**吉田** 求められる薬剤師、社会からの期待に応えられる、信頼される薬剤師になるには、薬剤師個々が社会から何を求められているかをしっかりと理解し、的確な努力を継続しなければなりません。

CPCは、そのために薬剤師の生涯学習を促します。冷静に考えれば、生涯学習は薬剤師に限らずあらゆるプロフェッショナルにとって必要で、その部分が浮き彫りになりつつある時代の流れの中で、薬剤師が日本社会での生涯学習を率先していくようなかたちをつくり上げられればと思っています。